



力になりまっせ!

鳥取県関西本部 (最終回)

関西本部勤務を振り返って

だいでせんブランドは強く誇れる

鳥取県との人事交流で、鳥取県関西本部に派遣されていきました入江雅史です。早いもので2年間の大阪勤務が終わりました。関西本部の仕事を振り返りながら、見えてきた課題について書いてみたいと思います。

企業立地について

関西から県内に進出の企業が約100社、そのうち大山町には9社あります。

私は県と企業本社とのパイプ役として、県西部の進出企業を中心に企業訪問をしてきました。また「進出企業との意見交換会」や「サポーターズ企業交流会」を開いて企業から本県に対するご意見を伺い、地元へ伝えるながら課題解決に向かって取り組みました。本町には「大山町企業連絡会議」があり、情報交換会や研修会を実施し、町内企業との連携を深めています。連携

を通じ各企業にはいろいろな会議に出席していただき、人脈を拡げていただいたほか、町内企業(本社)間で、商談がまとまった事例もできました。

情報交換会などでトップの方の様子を拝見しますと、まず、工場周辺の立地をはじめとして、大山町の「環境や景観」を自信を持ってお客様に紹介されています。その様子を拝見するたび、実際に生活をしている私たちが、地元の良さに気づいていないことがいかにたくさんあるかを思い知らされました。

移住・定住促進

IJUTAINBIG相談会では、「田舎暮らしをしたい」「農業を始めたい」という方が相談に来られ、大山周辺に行きたい、住みたいという声をたくさん聞きます。また、相談者の中には実際に県内を



見て回り、直接役場に相談してくださった方もあります。しかし、残念ながら大山町への移住・定住はなかなか実を結びません。

この原因を田舎暮らしコーディネーターは「担当者が相談者のニーズに対しての説明に終わっていて、継続的な話につながっていない。継続的な情報発信(声かけ)が必要であり、相談者もそれを求めている。成功している町は、地域のことを熟知しており、人とつながる専任の職員(地域コーディネーター)を置いて、相談者に絶えず情報発信をしている。この差が大きい」と言っています。

また、今後の移住定住策を考えた時、これからは60歳前後で「退職後の人生」を考えている方をターゲットにすることも必要です。そのためにも、安心・安全に住めるまちづくりに向けて、さらに取り組む必要性を感じました。

むきばんだ遺跡新緑まつり

弥生のムラの復元完成を祝って、古代の音色コンサート、もちつき大会、古代体験などさまざまな催し物を予定しています。

◆日時 4月29日(祝・金) 10時~15時30分

◆会場 県立むきばんだ史跡公園(大山町妻木)

◆問い合わせ先

県立むきばんだ史跡公園 0859-374000

編集後記

大山中学校の卒業式を取材しました。表紙の写真は式典終了後のものです。記念品を照れながら渡す卒業生、うれしそうに受け取る担任の先生、卒業式の緊張感とは違い、体育館は優しい空気に包まれていました。春は出会いと別れの季節でもあります。悲しい別れの次には、たくさんのお別れが待っています。未来へ向かって踏み出す皆さんの一歩を見ることができました。(ひろ)

今月の税

・軽自動車税 (全期)

納期限 **5月2日(月)**

※期限までに納めましょう

私たちのまち (3月1日現在)

○人口: 18,135人 (-13)
男: 8,641人 (-5)
女: 9,494人 (-8)
○世帯数: 5,837世帯 (-6)

毎月10日は
ノーマジ袋デー



大山町広報 4月号 No.92

◆発行: 大山町役場

◆編集: 企画情報課

鳥取県西伯郡大山町御来屋328番地

TEL 0859-54-3111

FAX 0859-54-5216

大山町ホームページ <http://www.daisen.jp/>

◆印刷: 有限会社米子プリント社



この印刷物は大豆インキを使用しております。

この広報紙は、環境に配慮した再生紙を使用しています。